

4年間で市民の皆様と「約束」したマニフェストを検証しました

太田博之 50歳

会派「みさわ未来」所属

今の勇気が
みさわの未来を変える



会派みさわ未来は
マニフェスト大賞優秀賞 2年連続受賞



プロフィール
Profile

生年月日：1961年3月31日
出身地：青森県三沢市生まれ
学歴：三沢高校卒、駒沢大学法学部中退
職業：有限会社 三ツ輪商会（代表取締役）
血液型：B型
星座：おひつじ座
趣味：スポーツ（ゴルフ・スキー）、
映画鑑賞、旅行
好きな言葉：一生青春
人は強くなければ生きていけない
しかし、優しくなければ生きていく資格がない

太田博之 後援会事務所

〒033-0024
三沢市東岡三沢1-79-4（有）三ツ輪商会内
TEL: 0176-53-1503 FAX: 0176-53-9167

ツイッター @ootahiroyuki31
<http://twitter.com/#!/ootahiroyuki31>



現職
Incumbent

NPO法人テイクオフみさわ 顧問（前理事長）
日本宇宙少年団みさわ分団 顧問
（財）三沢地区交通安全協会 副会長
青森県航空協会 副会長
中央町二丁目祭礼委員会 委員長
三沢市消防団員（第十分団）
青森県生涯学習審議会委員
ローカル・マニフェスト推進地方議員連盟 運営委員
JAXA宇宙教育指導員

公式オフィシャルサイト

<http://ota-hiroyuki.com>

太田博之 検索

携帯サイトはこちら



マニフェスト通信簿 (第3者評価)

青森中央学院大学経営法学部専任講師
早稲田大学マニフェスト研究所招聘研究員

佐藤 淳 氏

総合評価
78
/100点



▲ 青森中央学院大 佐藤研究室にて

1 マニフェスト実現への取組

■マニフェストの20項目に関して、子育て支援条例、いじめ、児童虐待対策以外、ほぼ一通り、一般質問や委員会等、議会の場で取り上げている。取り上げていない項目に関して、役所の担当者への働き掛けや、政策の研究を行っている。課題は、マニフェストの実現であるが、個人のマニフェストを会派のマニフェストに織り込み、進化させ、実現の可能性の度合いを高めたことは評価出来る。マニフェストの4項目で掲げている政策型の議員提案条例に関しては、会派として、一つでも任期中の制定を目指して欲しい。

実現取組
40
/60点

2 議員活動の情報公開

■自身のHPにおいて、積極的に日々の議員活動の情報発信を行うとともに、簡易投稿サイトのツイッター等、新しい情報発信の方法にも意欲的にチャレンジしている。また、会派として、4回の議会報告会、2回の街頭演説会を開催し、積極的に議員活動、議会活動の情報提供と、市民対話を実施したことは高く評価出来る。

情報公開
10
/10点

3 マニフェスト実現に向けての自己啓発の取組

■ローカル・マニフェスト推進地方議員連盟のメンバーとして、関連の各種研修会に参加し、マニフェスト、議会改革の先進事例の吸収に努めるとともに、新会派「みさわ未来」においては、1年間に9回の研修会を企画、積極的に会派の政策力向上を実践した。今後は、こうした取組を、三沢市議会全体に波及させ、議会全体のレベルアップが図られることを期待したい。

自己啓発
8
/10点

4 マニフェストの取組全般

■4月に設立された政策中心の新会派、「みさわ未来」の政策部長として、活動の中心的な役割を果たした。特に、会派マニフェストの作成の取組に関しては、6月から市内で計7回のタウンミーティングを開催、三沢市のあるべき姿、それに向けた方策について市民の意見を集め、「みさわドリームプラン」を作成、市長に提言したことは、マニフェスト型議員活動の手本となる。そうした取組が評価され、第5回マニフェスト大賞において、会派「みさわ未来」が優秀賞を受賞したことも特筆に値する。

取組全般
20
/20点

Q. 評価手法

今回の評価は、当選3年目（2010年4月～2011年3月）のマニフェスト型議員活動の評価であることを基本とする。

なお、太田博之議員が行ったマニフェストの自己評価を基に、それぞれに対してヒアリングを実施することにより第三者評価を行っている。評価は100点満点で採点し、80点が採点基準によるもので、残りの20点が評価者の判断（マニフェストの取組全般、及び、マニフェストの進化）で採点する。採点基準に伴う80点の内訳は、①マニフェスト実現への取組60点、②議員活動の情報公開10点、③マニフェスト実現に向けた自己啓発の取組10点とする。

また、今回は3年目でもあり、3年前のマニフェスト作成時とは、それぞれの政策を実現するに際して、内部、外部環境が変化してきている場合もある。そうしたことを踏まえ、マニフェスト実現への取組と、評価者の判断のところで、マニフェストが良い方向にバージョンアップする「マニフェストの進化」という視点も加味して採点した。

2011年8月12日

5、マニフェスト運動

自らのマニフェストを毎年検証（自己評価・第三者評価）し、マニフェストサイクルを回してきたことは勿論、市民協働のマニフェスト『みさわドリームプラン』を作成しました。また、そのことが評価され2010年、2011年と2年連続マニフェスト大賞優秀賞（地方議会部門）を県内では初めて受賞しました。



※写真は、マニフェスト大賞審査委員長 北川正恭氏（中央）を囲んで

6、情報公開

2008年度のマニフェスト評価（第三者評価）の際に、情報公開の項目で0点だったことを受けて2009年度からホームページを立ち上げ、議会活動を中心にブログを公開し、ほぼ毎日更新しています。また、携帯サイトも立ち上げたほか2010年9月からツイッターを、2011年月からフェイスブックを活用し情報発信に努めてきました。



7、その他の活動

県生涯学習審議会委員（2007年から）の傍ら、上北教育支援プラットフォーム実行委員長として市内の小中学校の教育支援を行う国のモデル事業を進めています。また、市民提案事業を活用して「コミュニティ・スクールフォーラム」（3年連続）を開催するなど、教育問題に積極的に関わってきました。



アメリカ村「MGプラザ」（現スカイプラザ）について



当時、建設を進めるに当たり、常にどんな事でも役員会並びに市の担当者と相談の上で進めており、私自身、会社及び個人の資産を全て担保に入れて取り組んできた事業でありました。

また、一部で風評されているように、私個人が勝手に計画や建設業者を決めてきたとの事は全くの事実無根であります。

しかし、「MGプラザ」の計画に携わった者として、現在このような状況になったことを申し訳なく思っております。

振り返ってみますと、7年間で900回近い会議を行い、地域の方々と「夢」を語り合いました。若者が集い、誇れるアメリカ村。決して他の地域がマネの出来ない、基地との融合で創るMGプラザを目指し、明けても暮れても先輩たちの20年来の「夢」を実現したいと、使命感に燃えて挑んでおりました。

この思いは今でも変わることはありません。ここで生まれ育った私としては、もし再度、関われる事があれば失敗から学んだことを活かしていきたいと願っております。